

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 貿易統計(2006年11月)

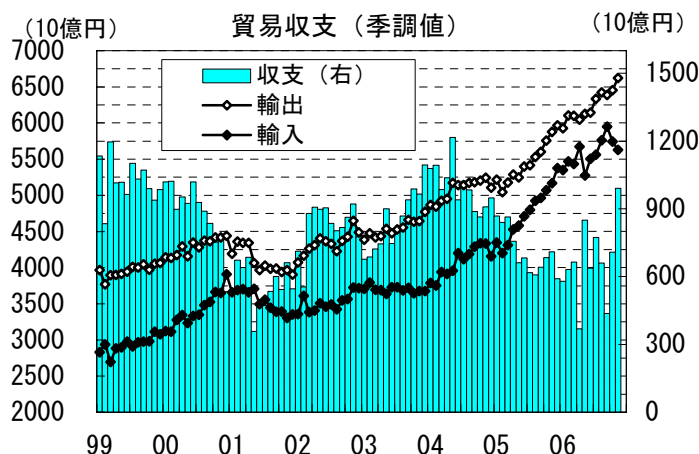
発表日2006年12月21日(木)

～貿易黒字額は原粗油輸入の減少により大幅に増加～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭

TEL : 03-5221-4525



(出所: 貿易統計・財務省)

(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
05年11月	710	5879	5169	594
12月	591	5967	5376	908
06年1月	579	5929	5349	-354
2月	632	6103	5471	947
3月	665	6099	5434	968
4月	370	6045	5675	650
5月	851	6127	5276	381
6月	637	6144	5507	805
7月	774	6335	5561	858
8月	660	6422	5763	195
9月	438	6386	5948	1009
10月	709	6455	5746	611
11月	991	6622	5631	916

(出所: 貿易統計・財務省)

(前年比、%)

	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
05年11月	14.7	7.6	6.6	4.7	▲ 0.7	4.3	16.7	19.3	▲ 2.1	▲ 2.3	▲ 1.0	0.3
12月	17.5	10.6	6.2	6.4	▲ 1.9	3.4	27.4	24.8	2.1	10.8	▲ 1.2	3.8
06年1月	13.5	5.6	7.5	12.2	4.4	▲ 1.1	27.0	18.7	6.9	2.6	0.2	10.0
2月	20.7	5.3	14.6	8.5	1.6	15.9	30.3	23.7	5.4	6.9	5.7	3.9
3月	18.0	6.2	11.1	8.0	5.7	12.1	25.3	20.3	4.2	▲ 7.0	0.6	8.0
4月	11.3	4.7	6.3	8.7	▲ 0.2	6.7	20.2	14.7	4.8	▲ 15.2	▲ 2.1	11.2
5月	18.9	6.6	11.6	15.1	8.1	15.2	18.0	13.1	4.4	5.4	2.8	9.1
6月	14.5	5.3	8.7	2.5	9.3	8.0	18.3	13.4	4.3	▲ 0.2	▲ 3.8	9.5
7月	14.2	7.8	5.9	8.9	1.1	6.5	16.9	12.3	4.0	▲ 6.2	2.2	10.9
8月	17.6	5.0	12.0	13.0	6.9	10.5	16.2	13.7	2.2	6.3	2.8	4.4
9月	15.3	7.2	7.5	7.5	7.1	13.1	17.0	14.1	2.5	2.7	▲ 2.3	7.5
10月	11.5	9.7	1.6	10.4	▲ 2.2	6.7	17.5	8.8	7.9	19.7	4.6	12.3
11月	12.1	7.9	4.0	7.5	2.9	6.0	7.5	5.0	2.3	5.1	▲ 6.3	6.0

○ 11月の貿易黒字額は前年比+54.1%と2ヶ月ぶりに増加

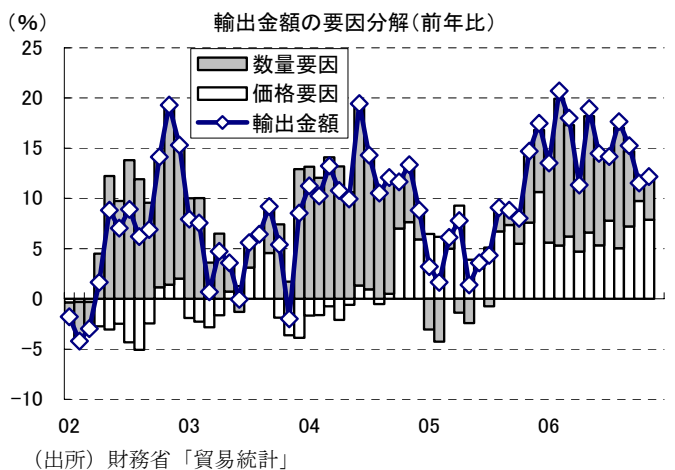
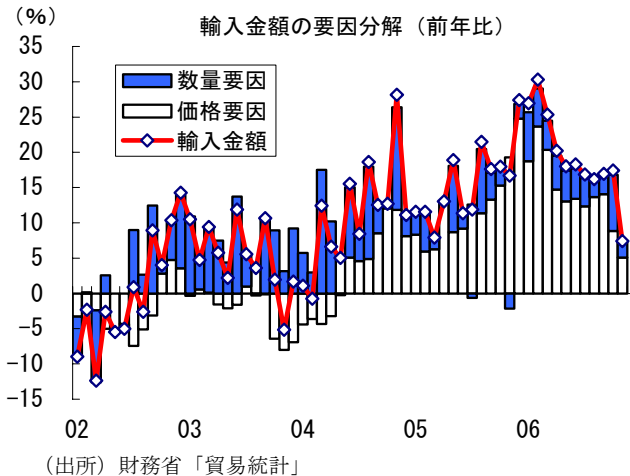
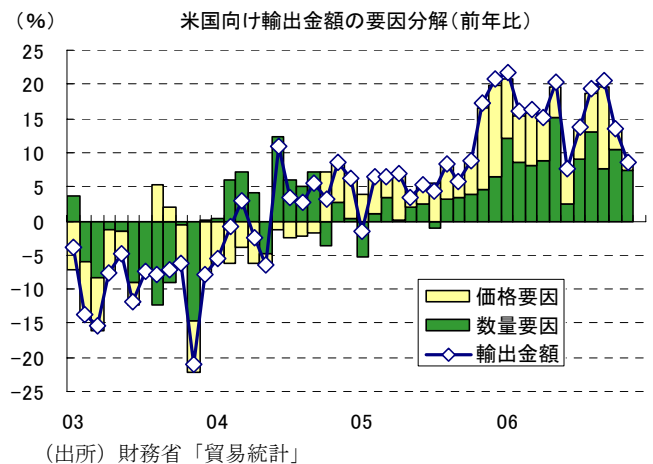
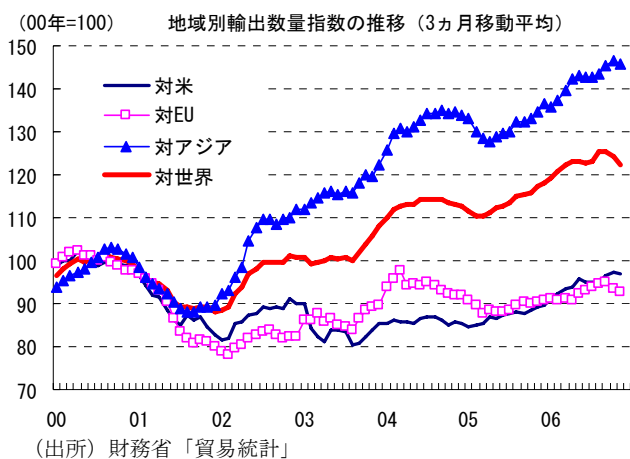
11月の貿易収支は9159億円(原数値)、前年比+54.1%となった。輸入金額は非鉄金属、液化天然ガス等が増加したものの、原粗油の減少によって前年比+7.5%(前月同+17.5%)と前月から伸びが縮小した。原粗油輸入の減少は、これまでの価格高騰によって数量ベースでの輸入が減少していたことに加えて、11月は単価が前年比+3.8%(1バレル59.8ドル)と前月の同+7.5%(1バレル64.4ドル)から一段と伸びが低下したことが要因である。一方、輸出金額は自動車、鉄鋼等が堅調だったことから前年比+12.1%(前月同+11.5%)と前月から伸びが小幅拡大した。輸出が高い伸びを維持し、輸入の増加ペースが大きく鈍化したため、貿易黒字額は2ヶ月ぶりに前年を上回った。

○ 年度前半と比較すると輸出数量は減速傾向にあるが、減速ペースは緩やか

輸出を数量ベースで見ると、前年比+4.0%(前月同+1.6%)となった。地域別にみると、米国向け

(同+7.5%←前月同+10.4%)、アジア向け(同+6.0%←前月同+6.7%)は伸びが鈍化したものの、EU向け(同+2.9%←前月同▲2.2%)については前月の減少から反発した。米国向け輸出は主力の自動車輸出が好調である。前年比+27.7%と前月からは伸びが鈍化したものの高い伸びとなっており、同地域への輸出の牽引役となっている。アジア向けについては引き続き非鉄金属や鉄鋼などの素材関連品目が増加に寄与した。IC輸出の伸びが鈍化するなどアジア向け輸出に頭打ち感もでてきているが、アジアは今後も高い成長が見込めることから大きく落ち込むことはないと考える。一方、EU向けは自動車輸出が大きく増加しており、2ヶ月ぶりに前年を上回った。EU域内経済の回復が続いていることや円安・ユーロ高が続いていること等を考えれば、EU向け輸出は底堅く推移する見込みである。

年度前半と比較すれば輸出数量は減速傾向にある。ただし減速ペースは緩やかであり、米国景気が失速することがなければ輸出は底堅く推移すると考えられる。



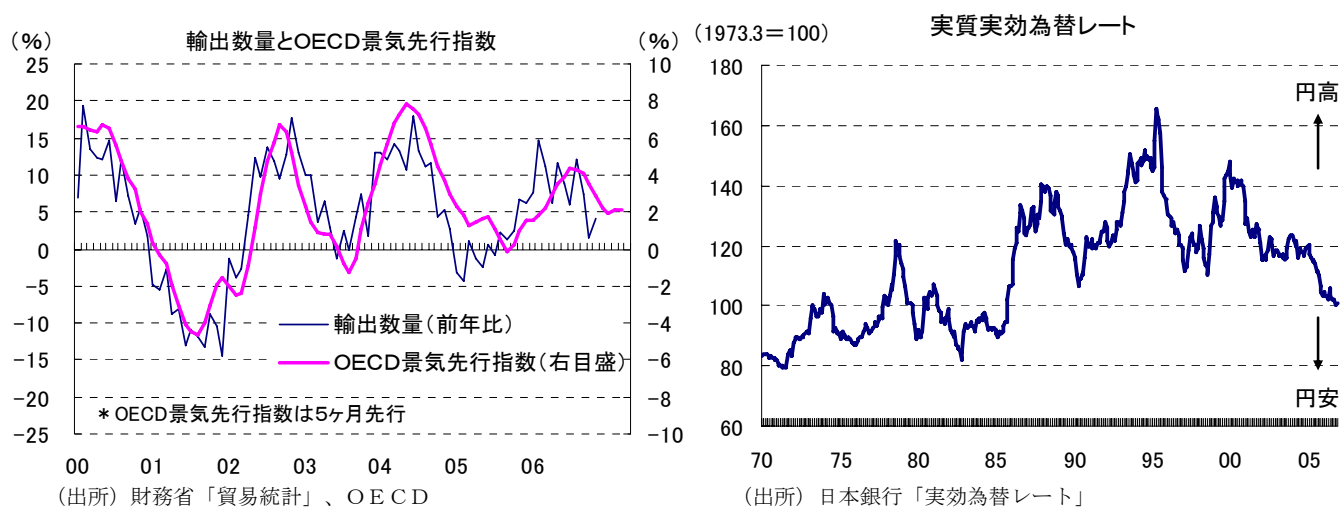
○ 先行指標は輸出の減速が軽微に終わることを示唆

米国景気が減速していることや輸出の先行指標であるOECD景気先行指数がピークアウトしていること等を踏まえると、輸出の増加ペースは当面、鈍化傾向を辿ると考えられる。もっとも、米国の住宅部門の減速が個人消費を大きく下押しする公算は小さく、中国における金融引き締め策も景気を失速させるには至らないと考えられる。また、自動車などの競争力の高い製品での輸出は堅調であり、為替も円安傾向が続いていること等を踏まれば、輸出の減速は軽微なものとなろう。加えてOECD景気先行指数の減速についても、足元では下げ止まりがみられている。OECD景気先行指数が輸出に5ヶ月程度先行する関係を考えれ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

ば、早ければ07年1-3月期にも減速に歯止めがかかってくる可能性もある。

リスク要因としては米国のクリスマス商戦の動向が挙げられるが、これまでのところは比較的底堅く推移しているようだ。もちろん、クリスマス前の週末の動向やその後のギフトカードでの消費動向等もみる必要があるが、原油価格の下落や株価の上昇傾向なども踏まえると失速する蓋然性は低いと思われる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。